

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

課題番号	20H05654	研究期間	令和2（2020）年度 ～令和6（2024）年度
研究課題名	観測ロケットを用いた極超音速フ ライトテストベッドの構築と機体 推進統合制御の実証	研究代表者 （所属・職）  （令和4年3月現在）	佐藤 哲也  （早稲田大学・理工学術院・教 授）

【令和4（2022）年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>（研究の概要）</p> <p>本研究は、極超音速飛行環境下での機体／推進統合技術の構築、我が国独自の飛行試験インフラの開発を通じ、最終的に極超音速環境下で飛行実証することを目指したものである。</p>		
<p>（意見等）</p> <p>本研究は極超音速フライトテストベッド（FTB）を構築した上でS-520 観測ロケットを用いた飛翔実証試験まで計画している。2022 年度に予定されるマッハ5 推進風洞実験に向けたサブスケール試験を2021 年度に成功裏に終え、推進装置開発は順調に推移している。さらに軌道設計、及び熱構造解析の基礎を終え、制御側も装置の設計・試作まで終了している。諸般の事情により一部遅れがあり、熱防護設計が2022 年度開始になるなど加速すべき点はあるものの、中間評価までの研究の進捗はほぼ当初の計画に沿った形となっている。2024 年度の飛翔実験を見据え、上記の推進風洞実験、2023 年度実施予定の環境試験がマイルストーンとなるが現状の見通しは良い。</p>		